

科目名称:	保育内容「人間関係」の指導法	
担当者名:	柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
平成29年度告示の3法令改訂・改定における要点をふまえながら、人間関係とは何か、それを構成する要素、手段を具体的に学び、それぞれの獲得時期を幼児の発達段階に応じて理解し、実践する方法を身につける。		
授業の達成目標・到達目標		
領域「人間関係」の内容について理解を深めるとともに、「保育士に求められる人間関係とは何か」ということや、担当する子どもたちとのコミュニケーションを円滑に行うためのスキル、実践のために必要な保育の場での具体的な方略等を学ぶ。特別な支援の必要な子どもたちに対する対応については、その特性を正しく理解し、それをベースにした具体的な手立ての必要性を理解する。グループワークやロールプレイの活動を通し、事例対応を模擬事例で学ぶとともに、学生同士で問題解決を共有し協働する意味を学ぶ。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》臨床心理士	《経験年数1》14年
	《内容2》公認心理師	《経験年数2》5年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
幼児教育学科 学習成果との関連 ・多様な考えや価値観を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる（人間性） ・子どもの心身の発達や対応についての基本的な知識を持っている（専門性） ・子どもの心身の発達支援や対応についての基本的な技能を持っている（専門性）

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で得た知識同士を組み合わせた複雑な思考ができていく	講義で得た知識を適切な理解で使用することができる	不適切な部分はあるが講義で得た知識をある程度使用している	講義で得た知識を使用できず、専門性が乏しい
表現力・説明力	専門知識を活用し、なおかつ平易な表現への言い換えが可能である	身近な出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	教科書的な出来事に対して、専門知識を使った説明が可能である	語彙が不足しており、出来事に対する説明が困難である
積極性	ワーク等で質問や意見など自発的発言が多く認められる	ワーク等で質問や意見などたびたび自発的発言が認められる	ワーク等で質問や意見は時々述べる程度である	ワーク等で周りに任せる行動や無関心な態度がたびたび認められる

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 領域「人間関係」ねらいと内容(グループワーク含む)	幼稚園、こども園、保育所3つの要領・指針の「人間関係」について読んでおく	30分
第2回 乳児期の人間関係	自分の乳児期と現在で関わる人がどのように変化してきたのか振り返っておく	30分
第3回 1歳以上3歳未満児の人間関係	3歳までの子どもの認知や言語、身体の発達について復習しておく	30分
第4回 3歳以上児の人間関係(グループワーク含む)	3歳未満児と3歳以上児の人間関係の違いについて調べておく	30分
第5回 子どもの人間関係と社会性	社会性にはどのようなものが含まれるのか理解しておく	30分
第6回 子どもの人間関係と道徳性	道徳性はどうに育まれるのか、一般的なイメージを持っておく	30分
第7回 家庭や地域との連携	保育者と関わる場面以外で、子どもはどのような人間関係を構築していくのか考えておく	30分
第8回 人間関係を促す指導案作り①(グループワーク含む)	教科書第2編第4章を読み、指導案作成について改めて理解しておく	90分
第9回 指導案に基づいた模擬保育①(演習)	グループで作成した指導案を各自読み返し、自分の役割を確認しておく	60分
第10回 現代の保育と人間関係(ICTの活用)	昔と今とでは保育にどのような違いがあるのか、情報機器の視点から考えておく	30分
第11回 生活や遊びと人間関係	園での何気ない生活(例えば着替えや食事)と人間関係との関連を考えておく	30分
第12回 さまざまな家庭や配慮と人間関係	多様な家族形態、要配慮家庭について復習しておく	30分
第13回 人間関係を促す指導案作り②(グループワーク含む)	教科書第2編第4・5章を読み、指導案作成について復習しておく	90分
第14回 指導案に基づいた模擬保育②(演習)	グループで作成した指導案を各自読み返し、自分の役割を確認しておく	60分
第15回 領域「人間関係」について振り返り・まとめ	演習や授業全体を振り返っておく	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、各回に示された内容について行うことにある。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

レポート課題、授業内課題60%、授業への積極的関与(グループワーク含む)と演習40%

#### 課題に対するフィードバック

演習に関しては授業内で講評する形でフィードバックします

#### 教科書・参考書

テキスト：「ワークで学ぶ 保育内容『人間関係』」菊地篤子著 みらい(毎回の授業で使用する)  
参考書：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」